

7月初旬に予定していた「トンボ天国クリーン大作戦」は、大雨の影響で中止となりました。参加を予定されていた方、次の機会にご協力をお願いします。

さて、みなさんは普段の生活の中で、笠松町のよさを感じることがありますか?「笠松町道徳のまちづくり条例」が施行されて10年が過ぎ、日常の生活の中にも「笠松人の心」が表われていると思います。

梅雨明けした7月の中旬に、笠松町内をぐるりと回ってみました。すると、町内には豊かな自然が残り、多くの文化財・史跡があることがわかりました。また、一生懸命働く人の姿、親子で仲良く活動する姿、ボランティアで子どもを見守る姿、家の近くの道路の草を抜く姿など、心が温まる場面をたくさん見ることができました。

右の写真は笠松県庁及び美濃郡代笠松陣屋跡の様子です。写真を撮りながら、昔この地には陣屋そして県庁があり、笠松湊も近いと、地域の中心地として栄え、それが笠松町の文化を発展させる一つの要因だったのだと思いを巡らせました。

みなさんも、笠松町内のいろいろな場所で、「笠松のよさ」を見つけ、感じてみてください。

今年度も、“かさまつ いいね”写真を募集します。

今は、スマホや携帯電話で簡単に写真が撮れる時代になりました。笠松町のよさを感じた時にすばやく画像に記録し、応募してください。詳しい募集要項は10月の班回覧でご案内します。



県町にある美濃郡代笠松陣屋・県庁跡

かさまつ町の民話「昔むかし」
こま化け橋②

今まで落ちついて伊多見たちの話を聞いていた戸長雄留利は、いっしゅんどうてんしたと。なにせ長さ九間で、幅二間もある土橋をあさつてまです直せというのじゃからな。材木とて、赤坂の山から、切り出さにはあならんし、第一いまは田植えの前じゃ。こんなとき村の男衆全部が橋直しに出た日にやあ米も半作になる。

雄留利は困りはてた。

とにかく、村中へふれをまわして自分は及橋へ走ったと。

及橋は、真中からだらしない折れてたれさがつておった。でも、鎌倉街道は、あいかわらず旅人が多くて二そのの渡し船がエイコライエイコライそがしく客をはこんでおった。「えらいこわれ方じゃ。こら

あさつてまで夜なべ仕事になるかもしれん。」と思いつながら橋直しの材料をかぞえると雄留利のそばに領主さまの馬たちが集まってきた。その中の首領格と思われる毛なみのよい馬が、とつぜん雄留利の袖をぐいぐい引っぱったんや。

「なにするや黒。この橋をあさつてまでに直さんと、おまえらの餌もとれんようになる。」

と、じゃけんにはふりはらった。でも、黒はまだ鼻を寄せてきて、袖をやけに強くひっぱる。雄留利は、めんどくさくなつて、黒をひっぱたいてやろうと馬たちの方を見たとき、すると、どうじゃ。足近野の馬たちが一列にならんて背中をくつつけてとるではないか。(つづく)

かさまつ町の民話「昔むかし」は昭和54年に発行されました。笠松中央公民館・松枝公民館・総合会館でご覧いただけます。